

ヤングケアラー

特集2

愛知県議会議員

かわしま太郎 県政レポート Vol.21



昨年、まずはヤングケアラーという言葉に触れてほしい、知ってほしいという思いで県政レポートを作成いたしました。この一年の間にヤングケアラーに関するニュースや新聞記事を目にする事が多くなるなど、だいた社会に浸透してきたと感じています。国では2022年度から3か年をヤングケアラー認知度向上の集中取組期間と定め、施策の充実強化を図っており、今後ますます認知度が高まっていくと存じます。

愛知県においては2021年11月から2022年2月にかけて「愛知県ヤングケアラー実態調査」が行われ、3月に調査結果がまとめられました。今後はこの調査結果をもとに、国の施策と連携しながら支援策を展開してまいります。家庭内のデリケートな問題を含んでおり、非常に対応の難しい課題ではありますが、すべての子供たちに明るい未来が届けられるよう、私も精一杯努力してまいります。

愛知県議会議員
かわしま太郎



愛知県ヤングケアラー実態調査について

ヤングケアラーを適切な支援につなぐため 社会全体の理解促進を図ります

令和4年度当初予算額 6,006千円

今年3月に公表した「愛知県ヤングケアラー実態調査」の結果を基に、ヤングケアラーの生活実態や課題などを広く社会全体に発信するとともに、支援にあたる職員の専門性向上に取り組みます。

1 ヤングケアラー理解促進シンポジウムの開催

県民及び関係機関を対象としたシンポジウムの開催を通じて、ヤングケアラーに係る社会的関心を高めるとともに、正しい知識と必要な支援等について理解の促進を図ります。

テーマ 愛知県ヤングケアラー理解促進シンポジウム
～知って欲しい。家族のために頑張る子どもたちのこと～

日時 2022年8月2日(火)13:30～16:00

基調講演 あなたの身近にいるヤングケアラーといわれる子どもたち
野尻紀恵氏(日本福祉大学 社会福祉学部 教授)

トークセッション ヤングケアラー～見過ごされる子どもたちの現状と伴走型支援～

小鷹正嗣氏(半田市立半田中学校 校長)
前山憲一氏(半田市社会福祉協議会 事務局次長)
野尻紀恵氏(日本福祉大学社会福祉学部 教授/進行役)

※シンポジウム当日の様子を収録した動画を配信予定です。ページ下部のアドレスにリンク貼付予定です。

2 ヤングケアラー支援関係機関研修会の開催

ヤングケアラーへの支援にあたる教育関係者や市町村職員等に対して、研修会を開催します。

3 ヤングケアラー・コーディネーターの配置

関係機関が連携する際のパイプ役となるコーディネーターを配置し、ヤングケアラーへの理解促進や支援方法に関する助言を行います。

ヤングケアラーとその家族を社会全体で 支えていくため支援の充実を図ります

令和4年度6月補正予算額 21,458千円

今年3月に公表した「愛知県ヤングケアラー実態調査」の結果を踏まえ、ヤングケアラー及びその家族に対して適切な支援ができるよう、市町村モデル事業や子ども向け啓発事業を実施します。

1 市町村モデル事業

身近な地域で効果的な支援が行われるよう、市町村にモデル事業を委託し、ヤングケアラーの発見・把握から支援までの一貫した支援体制の整備に取り組みます。

委託数: 3か所 委託期間: 2022年11月から2025年3月まで(3か年)

2 子ども向け啓発事業

子どもたちがヤングケアラー問題を正しく理解し、当事者自らが相談できるよう、ヤングケアラーの声や相談先等を掲載した子ども向けパンフレットを配布します。

配布対象: 小学5年生から高校3年生まで(県内の国公私立学校 約54万人/1,700校)

ヤングケアラーの一例



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など回復に時間がかかるような病気の家族の看病をしている



©一般社団法人日本ケアラー連盟(一部抜粋)

詳しくは下記アドレスからご覧いただけます。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jidoukatei/aichiyoungcarer.html>

愛知県ヤングケアラー実態調査 【調査結果の概要】

2022年3月 愛知県福祉局児童家庭課(2022年8月更新)

調査の実施状況

子どもアンケート調査

調査の対象 公立小中高校に在籍する約2割の児童・生徒(対象学年)

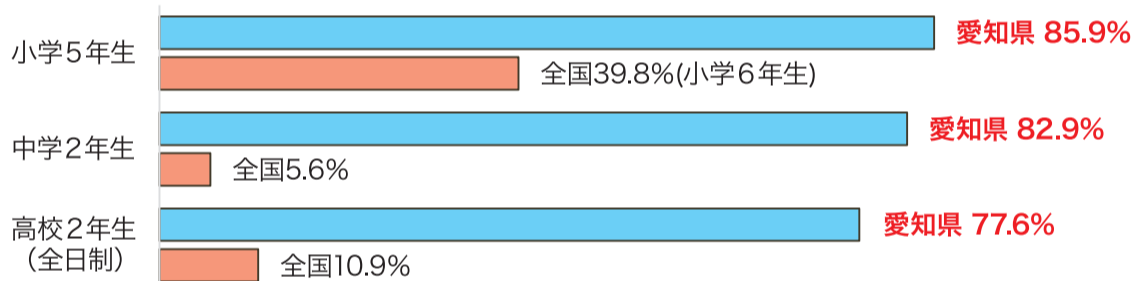
学年	愛知県	全国
小学5年生	13,931人	約24,500人(小6)
中学2年生	13,404人	約100,000人
高校2年生	10,393人	約68,000人

※全国の数値は、厚生労働省の子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(令和3年3月、令和4年3月)」から引用

調査期間 2021年11月17日～2021年12月17日

回答方法 学校の活動時間の中で、各生徒が学校配備端末を使用してWEB上で回答を入力(任意・無記名)

回答率



学校アンケート調査

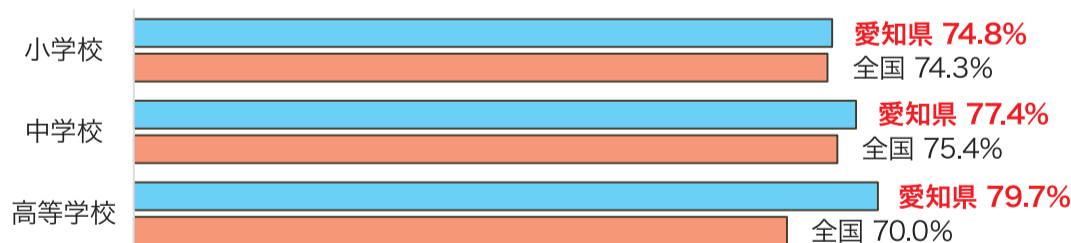
調査の対象 すべての公立小中高校

学校	愛知県	全国
小学校	965校	350校
中学校	416校	1,000校
高等学校	192校	444校

調査期間 2021年11月17日～2021年12月24日

回答方法 WEB上で回答を入力(任意)

回答率



インタビュー調査

調査の対象 元ヤングケアラーや相談支援機関等

調査機関等	実施数
元ヤングケアラー	8名
障害者相談支援機関	25機関
居宅介護支援事業所	
子ども食堂	
民間支援機関	
市町村社会福祉協議会	
医療機関	
市町村	
児童相談所	
県立学校スクールソーシャルワーカー	
小中学校	
高等学校	

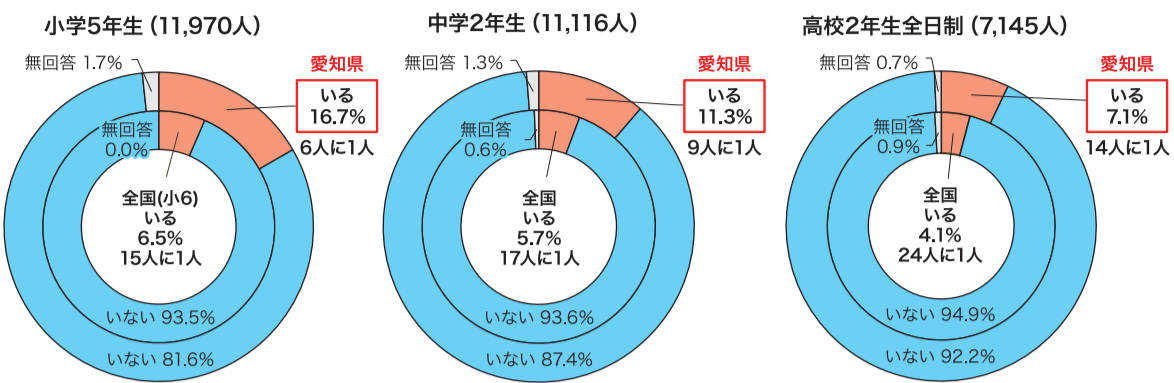
調査期間 2021年12月1日～2022年2月4日

子どもアンケート調査結果の概要

「子ども自身が世話をする家族の有無」について

小学5年生の16.7%、中学2年生の11.3%、高校2年生(全日制)の7.1%が「世話をしている家族がいる」と回答した。全国調査の結果に比べ高い割合となっている。

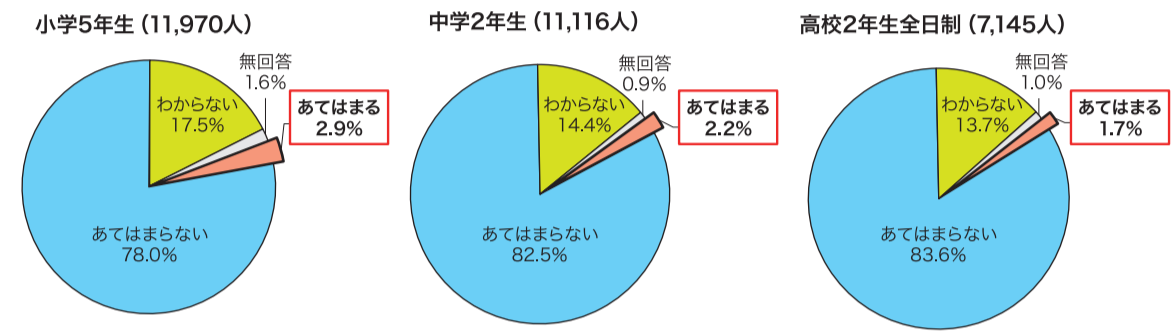
●世話をしている家族の有無



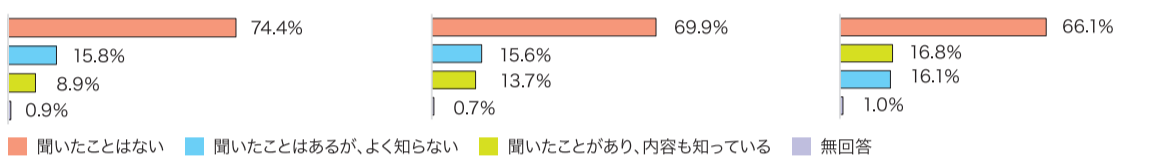
「ヤングケアラーの自己認識」「認知度」について

自分が「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した子どもは2%程度。また、70%程度の子どもの「ヤングケアラーという言葉を知らない」と回答している。

●自分はヤングケアラーにあてはまるか



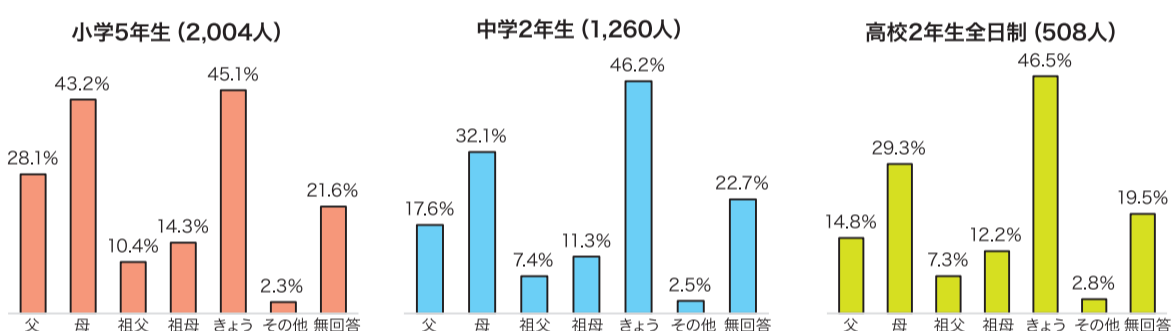
●ヤングケアラーという言葉を知っているか



「世話を必要とする家族」について

世話を必要とする家族は、小中高生とも「きょうだい」が最も多く、次いで「母親」が多くなっている。

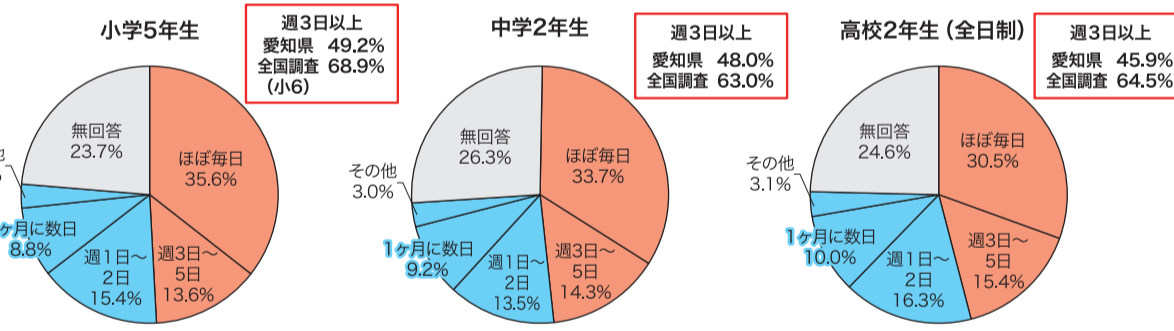
●世話を必要とする家族【複数回答】



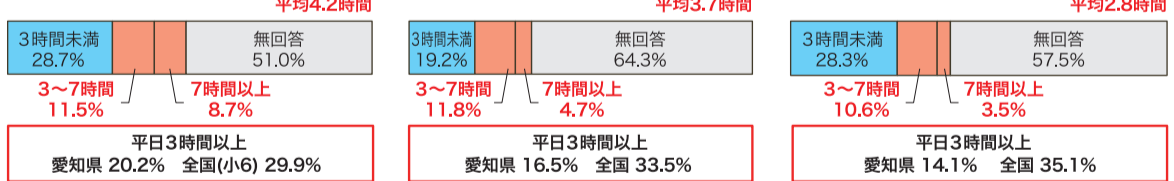
「世話の頻度」と「世話に費やす時間」について

世話をしている子どもの4割程度が「週3日以上」家族を世話しており、また、世話をしている子どもの1割～2割が平日1日あたり「3時間以上」家族の世話をしている。

●世話の頻度



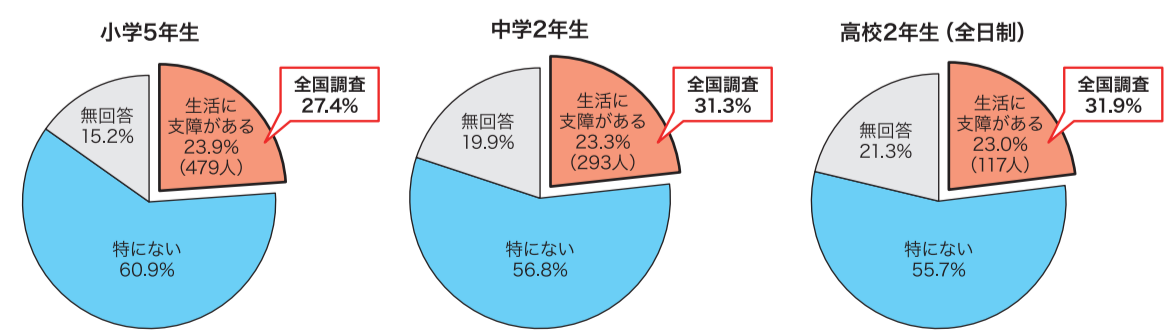
●世話に費やす時間



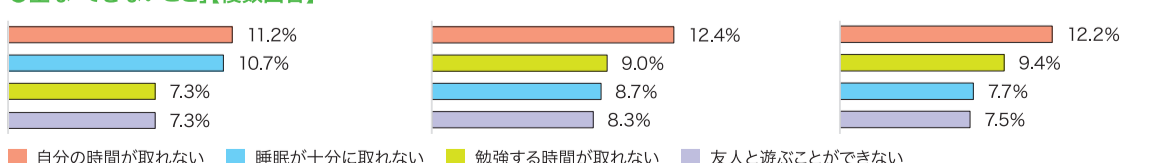
「家族の世話をすることによる生活への支障」について

家族を世話する子どもの2割以上が、「自分の時間が取れない」「勉強の時間が取れない」など、家族を世話することにより生活に支障が生じている。

●生活への支障があるか



●主な「できないこと」【複数回答】



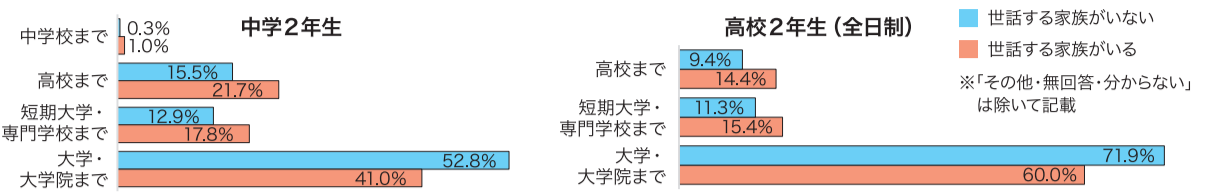
【愛知県独自質問】「生活の満足度」「進路希望」「相談方法」

「生活の満足度」や「進路希望」については、家族の世話をしていることによる影響が表れている。

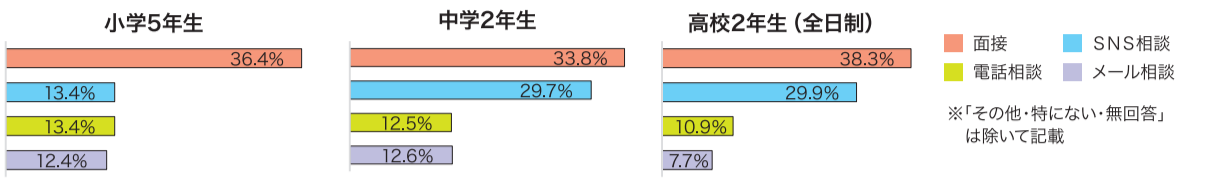
●世話をしている家族のいる子どもの生活満足度【10点満点】



●世話をしている家族のいる子どもの進路希望



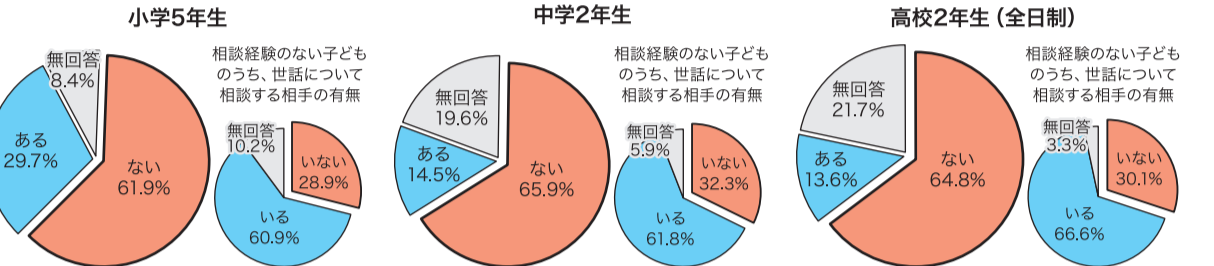
●利用しやすい相談方法【複数回答】



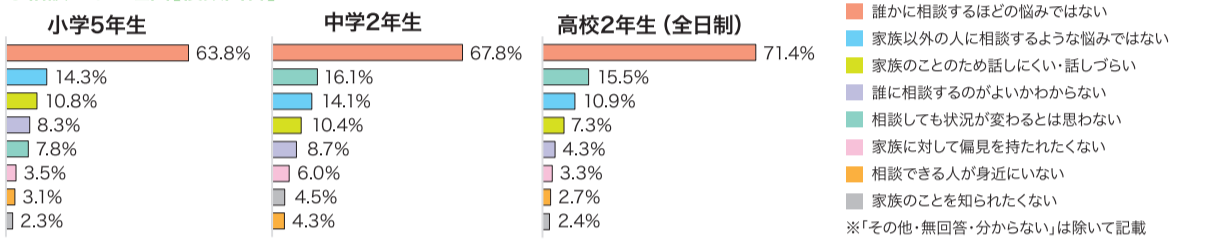
「世話についての相談経験」と「相談しない理由」について

家族を世話することについて6割以上の子どもが相談したことがないと回答した。悩みを抱えるが相談をしないことについて、「家族のことは話づらい」「相談しても状況は変わらない」といった理由が多い。

●相談経験の有無



●相談しない理由【複数回答】

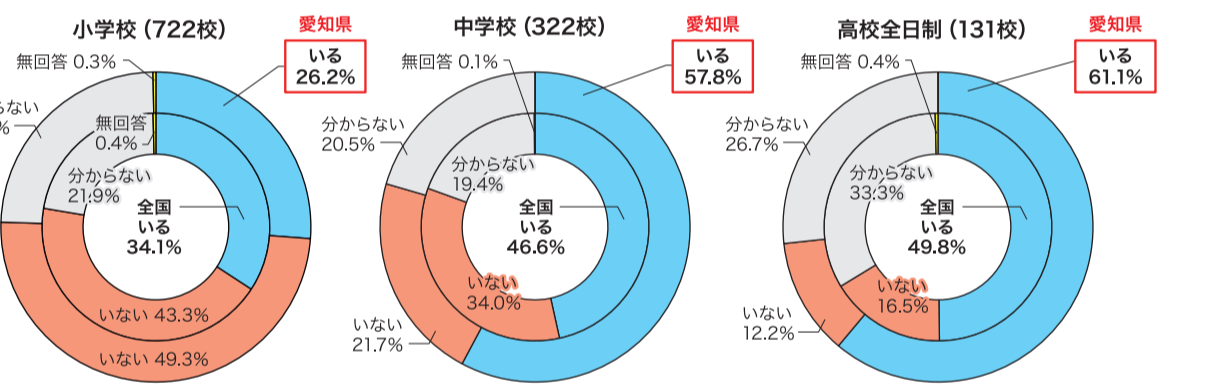


学校アンケート調査結果の概要

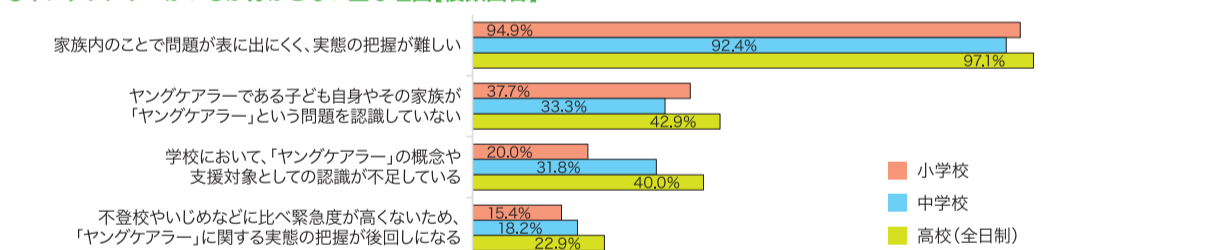
「学校でのヤングケアラーの把握状況」について

小学校は2割程度、中学校は6割程度の学校でヤングケアラーと思われる子どもが在籍すると回答している。また、該当の有無が分からない理由としては、家庭問題のため把握が難しいとの回答が多い。

●ヤングケアラーの把握



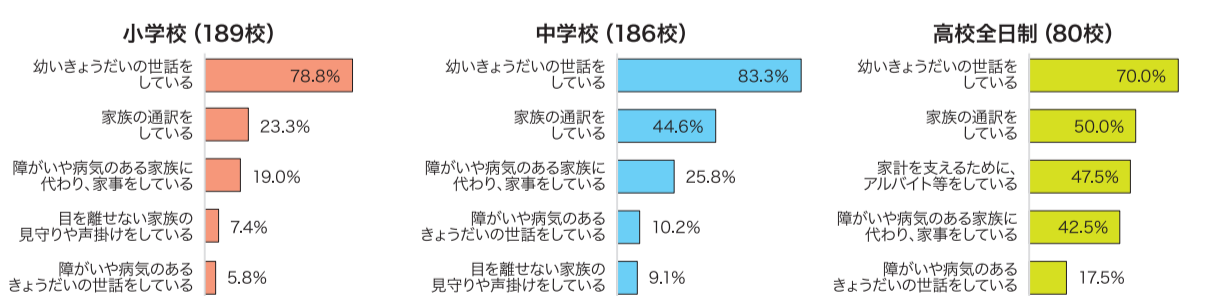
●ヤングケアラーがいるか分からない主な理由【複数回答】



「ヤングケアラーと思われる子どもの状況」について

学校が把握するヤングケアラーの状況は、家族に代わり「幼いきょうだいの世話」をする割合が最も多く、次いで「家族の通訳」をする子どもが多い。

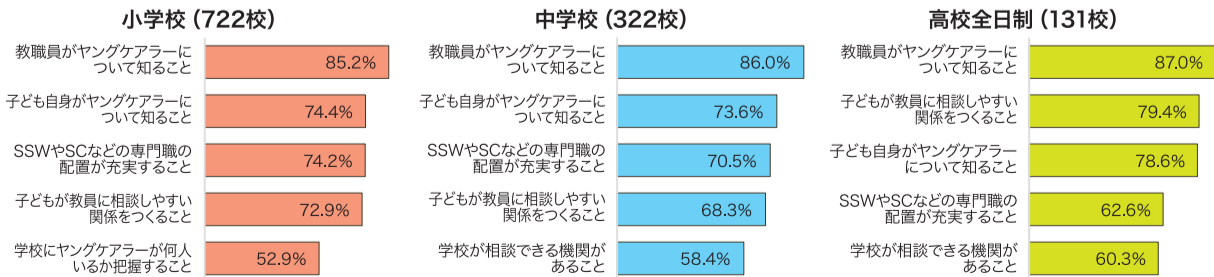
●ヤングケアラーと思われる子どもの主な状況【複数回答】



「ヤングケアラー支援に必要な取り組み」について

ヤングケアラー支援に必要な取り組みとして、小中高校とも子ども自身及び教職員がヤングケアラーについて知ることが多く挙げられている。その他では、SSWやSCの配置の充実が多く挙げられている。

●ヤングケアラー支援に必要な主な取組【複数回答】



詳しくは下記アドレスからご覧いただけます。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jidoukatei/aichiyongarer.html>